〔号数の訂正とお詫び〕
3月発行(前号)
(誤)29号→(正)28号

にっこり ひろば

令和2年 4月25日
栄二丁目自治会 広報誌 第 29 号
自治会長　大月孝彦

「栄二丁目自治会」 新年度役員 と 委員会の紹介

新型コロナ感染拡大もあって、活動休止を余儀なくされておりますが、「令和二年度」、スタートしております。

回覧での新旧交代になりましたことご了承下さい。

前年度活動報告、会計報告、新年度役員紹介他、今年度に関してのお知らせ等、ご覧頂けましたでしょうか。

「令和」に・・激しい幕開けを感じます。コロナ感染に伴って、何が？とは予測できませんが、時代に大きな変化が起きると誰もが感じているのではないでしょうか。人間の知恵と力を信じて、この危機を乗り越えられること、一歩前進することを期待します。全てが人任せで残念ですが、今、我々に出来ることは、一人一人が自覚をもって協力すること、マスク着用と手洗いの励行、互いに助け合うことなのでしょう。「人と人との接触機会を、八割の削減を・・」と、大事なことですが、外に出ることが少なくなれば運動不足の心配あり、高齢者においては、安否の確認もままならないかもです。せめて近隣の方への心配りは、忘れないで欲しいと望みます。

「一年間の役員が終われば、自治会のことは終わり」と思っている方に一言お願いです。みんな知り合い、みんな繋がっています、終りにしないで下さい。

「お手伝い出来ますよ、都合が良ければ参加しますよ。」の方々にお名前頂いております。『ふれあい交流実行委員会』どなたでも入れます。

組役員の任期が終えると自治会は・と疎遠になりがちな傾向では寂しすぎます。自治会に損得を求められても、「これがお得！」ということが出来ないのですが、みんなの居場所、相互ボランティアの必要性を理解し、大切にして欲しいです。「人と触れ合いましょう」で立ち上げた交流会です。それが自治会の良さと私は信じます。誰もがメンバーです。「機会があったら飲みましょう、食べましょう、笑いましょう」の気持だけあればオッケーです。

今年は、「コロナ感染」の問題があり、当分の間、行事の自粛を余儀なくされると思います。

しかし、イヤな事ばかりではないはずです。一人一人が他の人を想えば、この苦難も乗り越えられるはずです。「人を守ることが自分を守る」そんな教えを諭されているような気もします。

「イイよ。」って思われる方、お声かけ下さい、ご紹介下さい。

（自治会長　大月）

ふれあい交流実行委員会 & 企画運営委員

行事に伴って事務的な手続きや行事計画にあたっているのが企画運営委員です。役員兼務をしながらですが、行事がスムーズに行えるよう企画し、悪戦苦闘、ちょっとオーバーかな(笑)ですが、力を発揮しています。

コミュニティ申請は大変です。書類内容が細かいですが、無償貸与で貰えるならその方がベストと、頑張って自治会の備品を要求。今年は防災倉庫を申請予定です。

会員相互の親睦と交流に働きかけます。

○ふれあい交流実行委員会
総括　(委員長) 椎野彰夫
(副 〃) 山内益夫
祭礼委員会 (委員長)小西昭夫 (副委員長)石丸將晴
○助成金申請委員　大月孝彦　土井秀一
・地域の底力発展事業助成（東京都へ直接申請）
・一般コミュニティ助成事業 （東大和市を介して都へ申請）
○市民運動会(今年度 ➡ Cブロック代表)
大月孝彦　土井秀一　岩本大志

三役員会(本部機能)

会 長 ･･･ 大月孝彦
副 〃 ･･･ 山内益夫　大舘繁　土井秀一
会 計 ･･･ 水口英夫

年間を通して自治会の運営と、活動をどうするか？会長の提案と共に、其々の考えを持ち寄って話し合っております。概要が決まりましたら、企画委員を介して「ふれあい実行委員会」等の協力を仰ぎ、行事の実施となります。

会長の仕事は自治会内の、事業案、市や外部との折衝や交流にとご多忙の様子。 正・副会長、会計で話し合い、行事に及んでいます。

会計は経理だけに終わらず、備品管理や各イベントでの受付等、縁の下の力持ちですね。

陰から支えますと
会計監査　梶木三照
相談役　椎野彰夫　小西昭夫

多くを知る方達の知恵も頂き、これらことが滞りなく行われるように、事あるごとの相談役です。
頼もしいチームワークです。

令和2年度 組役員

-助け合いの精神で持ち回り制です-

1･2･3･12組	大舘繁		
4組	大山 智恵子	5組	加藤 信幸
6･8組	武田 いづみ	7組	樽屋 カズエ
9組	濱野 秀雄	10組	前田 きえ子
11組	町田 栄一		

※前年度の役員様ありがとうございました。

新型コロナウイルスの感染から守ろう 我が身と家族と大切な人

コロナウイルスは飛沫感染と接触感染
見えない敵 潜伏期間は２週間程度

Point 3つの咳エチケット
1)マスク着用
2)ハンカチ等で 鼻口を被う
3)袖や上着の内側で 〃

家の中にウイルスをもちこまない

外出先でも こまめにアルコール除菌を・・
(例、スーパーに入る時、出る時にシューを励行)
外出先では顔を触らない。
・接触感染 ・・何かを触れた手にウイルスが！
(自身が口目鼻等に触ることが感染ルートです)
(使用中マスクも極力触れない方がベター)
・飛沫感染 ・・感染者のくしゃみや咳、唾による飛沫ウイルスは 2m近く飛ぶ。
◎帰宅後、先ずは石鹸でしっかりと手洗いしましょう。

その手 ウイルスが付いてませんか？

人との接触機会 8割削減

部屋の換気

不要不急の外出を避ける
会話は２メートル以上離れて
もし 1.5m以内なら 15 分間以上の会話は×避けよう。
短い会話で済ませる、普段よりも１歩 ２歩離れよう。
三つの密をさける。
家の中では食卓が危ない！

家の掃除

接触感染しそうな場所を消毒液で拭く
(ドアノブ 手すり 机 トイレ 等)
1日1回以上
アルコール
次亜塩素酸ナトリュウム
(家庭用漂白剤等を薄めたもので可)

防災推進委員会

委員長　山内益夫
チームリーダー長　土井秀一

「当自治会、災害に対しての備えは大丈夫？」「自治会として何ができるか？」などが話題になり 2017年に委員会が立ち上がりました。

まだまだ歩き始めたばかりなのですが、いつ起こりうるか分からない災害だけに、実の有るものを考えて訓練をする必要性を感じます。

避難所生活を余儀されるような災害が起きたら、末端の役目を担う訳で、必要とされるものは何か。

自治体や地域自主防災がある中で、我々がやらなければならないことは、家族の安否、近隣の安全確認です。当防災推進委員会は、この『安全確認』を合言葉に、チームを作り、「身近に出来る防災訓練は何か」で進めております。 南街地区は木密度の高い住宅街です。スタンドパイプが必要と思われますが、数回の訓練を経たとして果たして我々にスタンドパイプでどれだけの消火活動ができるのか疑問に思います。

第一、消火活動に必要な水源が乏しく、我先に消して・・と誰もが望む中では、右往左往するだけだろう。
火を目前にすると怖いものです。その怖さは半端無いかも。

火災はとにかく命を守るのが最優先。「自分宅の消火ならば、まずは消火器で初期消火を！ダメなら逃げる。」それが鉄則と聞いております。家族の安否を確認できたら次に誰れを？・・・と、日頃から、生活状況を把握する、誰が助けを必要としているかを知っておくことが大切なのではないでしょうか。

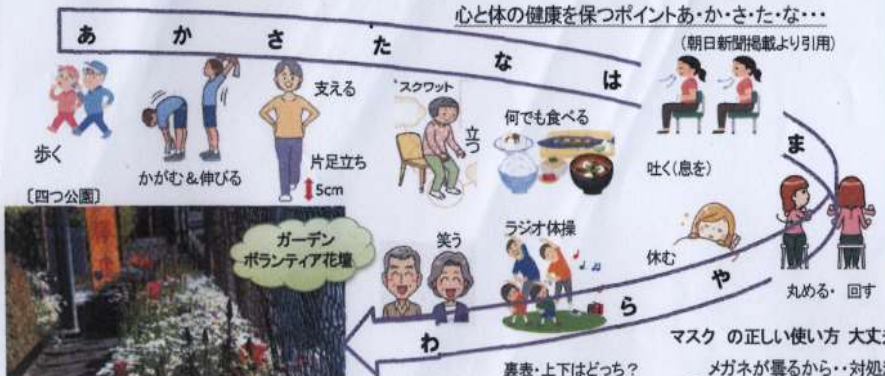
助かった後の避難所生活も含め、初動をどうするか等を訓練目的におき、動こうとしております。

町内を４つのチームに分け、若い方達にチームリーダーになって頂いています。詳細は防災訓練等を含め、お知らせできればと思います。

又、にっこり編集員に防災女性班として手伝って貰っています。

心と体の健康を保つポイントあ･か･さ･た･な･･･

(朝日新聞掲載より引用)



我慢は必要ですがコロナ対策を、頑張りましょう。
知恵と アイデアお聞かせ下さい。
＜編集責任者 大月恵美子＞

マスク の正しい使い方 大丈夫？

裏表・上下はどっち？

ひだは下向が表面
紐の接着面が表面

メガネが曇るから・・対処法

マスクの上部(ワイヤー)を
メガネの中に入れる。
(鼻骨が隠れる位まで)

前回お伝えした ハンカチマスク の 手軽さバージョンUP
ハンカチを折りたたみマスクを中に入れる。 紐だけ外に出す。

広報委員

にっこり ひろば　(代表)大月恵美子

現在７名で作成（女性） 内容を考え記事にします。 校正(佐藤)
着色は全員(山内・水口・神谷・高橋・泉・佐藤・大月)
印刷＝会長(公民館の印刷機)
面白おかしく書ければと思っております。寄稿して下さい。m(_ _)m